技術・家庭科　家庭分野　学習指導案

指導者　　冨永　暁菜

1　日　　時　　令和５年 11 月 18 日（土）　第２校時（10：05～10：55）
2　学年・組　　中学校第３学年２組　計 20 名（男子 11 名，女子９名）
3　場　　所　　家庭科室
4　教 材 名（題 材 名）　　エシカルアクションへの第一歩
－消費者行動が社会と環境に与える影響－

5　教材（題材）について

「誰一人残さない（leave no one behind)」世界の持続可能な開発目標取組として 2030 年までに目標を達成するべき 17 の目標を掲げた SDGs 目標達成まであと７年となった。目標に向け企業・学校での取組がある一方でその達成とは裏腹に社会情勢の悪化や劣悪な環境で労働させられている児童や教育を受けられない児童がまだ世界には多くいる。またこの世界のどこかで貧困で苦しみ，過酷な労働環境で働かせられている児童が生産した商品を，私たち消費者は「安いから」という理由で何も考えずに購入し使用している現状がある。この中学３年生は７年後には社会人として社会に出ている人が半数以上いるだろう。彼らが社会人になった時に経済を回す担い手としてどんな視点で社会・環境を見ているだろうか。その視野を広げるために，「C．消費生活、環境」の範囲で小学校での学習を踏まえ，中学校で指導する「知識及び技能」が高等学校の学習に発展していくものと意識して，確実に定着できるようにすることを目指す。SDG s にも呼びかけられている「「行動の 10 年」に突入した今，私たち一人ひとりにできることをしっかりと考え，一歩踏み出す姿勢が求められている」のだ。SDGs17 の目標では 2023 年の日本の達成度は世界で 166 か国中 21 位と出ている。図１に示してあるように，緑色の「達成」ができているのは２つのみ，黄色の「もう少し」は５つ，オレンジ色の「まだまだ」は５つ，赤色の「まったくできていない」は５つもある現状だ。持続可能な社会につながっていくことと家庭科の見方・考え方で生活の中での快適さや安全さも保つことの双方が考えられる授業を展開していく。

図１　2023 年日本の SDGs 達成度

出典：Sustainable Development Report

本学級の生徒の実態把握として，３学年（79 人中６９人回答）に「C．消費生活・環境」の分野を学習する前に自身の消費生活を振り返る事前アンケートを行った。10 の質問を各自タブレット端末で QR コードを読み込んでもらい回答を得た。その中で，家庭で生活にかかるお金について具体的に話した経験があるかをきいたところ，約４割の生徒が「はい」と答えた。授業で金銭計画を取り扱う場面でどのような時に話をしたのか聞いたところ「スマホを買う時にどれくらいのお金が家庭でかかっているのか聞いた」や「家庭環境から，新しい習い事をするのに不安になったので，親の給与を聞いた」など，何かしら金銭が必要な場面になった時に親に生活に関わるお金を聞いたようだ。またインターネット（通信販売）を利用して商品を購入した経験があるかを聞いたところ，約６割が「はい」と答えた。その中でも「クレジットカードを利用したことがある」と答えた生徒もおり，親の許可を得て利用したのかそれとも許可を得ずに利用したのかという疑問も生まれた。また，自分の消費行動が社会や環境に影響すると思うかという質問に対しては約６割が「いいえ」と答えた。「はい」と答えた人に例えばどのようなことが影響するかと聞くと「物を多く買いすぎると，使えずに捨てるようになって環境に悪い」「レジ袋をもらい環境破壊」「消費関係で福祉に使われているのでは？」「ポイ捨て」「消費税の支払い」「経済が回る」「食べずに捨てると，食品ロスになる」「消費をすることで，ゴミになるものがあるから，環境に影響があると思う」「買った商品を作った人に利益がある」「消費活動により経済を回すことにつながると思う」などと答えた。商品を購入することは経済を回すことだとは思っている人が多かったが，それを消費することでいつかゴミになって廃棄することになる。それが環境に負荷がかかると思っている。約６割は消費行動が社会や環境への影響力があるとは考えず，物資やサービスで商品を購入・活用・廃棄していると考えられる。

よって，指導にあたっては，消費者行動が社会や環境に影響を与える現状を伝え，実際に私たちの消費行動との繋がりを意識した授業を展開していくために，私たちがいつも身にまとうファッションの裏側（生産・使用・廃棄）を取り上げる。具体的には綿花（コットン）を生産する上での現状を伝える。インドの貧しい地域で多く作られる綿花。その綿花で作られた綿で織られた下着を私たちの多くは普段使用している。その綿花は児童労働でなりたっている。また綿花生産での農薬使用量は農作物の中で最大と言われている。一方オーガニックの綿花生産では，化学物質を最小限におさえており，労働者の環境・安全についても配慮されている。また児童労働の禁止も守られている。ファストファッションでは私たちの流行をいつも捉えており，プチプラという安価で買えるため，中高生のお小遣いでもたくさん購入ができ気軽に購入できる商品だ。その一方で，生産される環境は過酷な労働を強いられ，その工場が崩れて事故が起きることもあった。またその年に大量に作られた服は「流行っていないから着ない」という理由で来年度には大量に廃棄されている現状だ。生徒には私たちが何かを購入する時に，品質と価格に目が行きがちだけれども，その背景を考えて商品を選ぶことも大切だということを理解させたい。また，本時の授業から生徒は消費者の責任を持つことで自分や家族の消費行動を見直すきっかけになってほしい。エシカル消費について学んだ後，商品への価格や原産国などに疑問を持ち，普段の買い物からその商品を使用すること，廃棄することまで社会や環境に配慮することを意欲的に行動（エシカルアクション）を起こせるきっかけ作りができるように授業を展開していきたい。環境省の SUSTAINABLE FASHION には具体的な方法が示されており，図２で示したようにファッション業界では３つの目標が大きくかかわっていると判断した。そのため，衣生活を送る中でこの３つの目標から私たち消費者ができることを今後の授業で生徒に考えさせていきたい。

図２　ファッション業界と関連性の高いと思われる３つの SDGs

6　教材（題材）の目標

（1）　購入方法や支払い方法の特徴，計画的な金銭管理の必要性，売買契約の仕組み，消費者被害の背景とその対応，消費者の基本的な権利と責任，自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解するとともに，物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。

（2）　物資・サービスの購入，自立した消費者としての消費行動について問題を見出して課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。

（3）　よりよい生活の実現に向けて，金銭の管理と購入，消費者の権利と責任について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとすることができる。

7　指導計画（全９時間）

次	時	学習内容
1	1	自分や家族の消費生活を振り返る
	2	多様な購入方法と支払い方法
	3	金銭管理
	4	物資・サービスの選択・購入
	5	売買契約の仕組みと消費者被害（消費生活センターの方の出前授業）
2	6	消費者の権利と責任
	7～9	消費行動が社会と環境に与える影響（本時７／９）

8　本時の目標

自分や家族の消費行動が環境や社会に及ぼす影響を様々な視点から考え自分のこととして長期にわたって考え実行しなければいけないことを理解することができる。【知識・技能】

9　「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な生徒の姿
Ⅲ	自分や家族の消費行動が環境や社会に及ぼす影響について様々な視点から考え，自分のこととして長期にわたって考え実行しなければいけないことを考える根拠を記述できている。
Ⅱ	自分や家族の消費行動が環境や社会に及ぼす影響を自覚する根拠を記述できている。
Ⅰ	自分や家族の消費行動が環境または社会に及ぼす影響を根拠にしている記述・理由無しの記述・未記入。
手立て【関連する教師の資質能力】	
○　自分の消費行動の問題点を振り返ることができ，様々な視点を持てるよう声かけを行う。【授業実践力】 ○　実物を用意することでより想像しやすい場面を設ける。【授業構想力】	

10　学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1．コットン（綿花）とは何かを知る ・コットンのイメージや綿は何に使用されているのか考える。 ・肌着（オーガニックコットン使用しているものとしていないもの）を見て，どのような違いがあるか比較する。 ・自分だったらどちらの肌着を選ぶか，意見を出す。	○　実際に綿花を見せ，　イメージを問う。 肌着で使用されているコットン 100％とオーガニックコットン 100％の価格，価格・見た目を比較する。
消費者行動が社会と環境に与える影響を理解する	
2．ファッション業界の４つ資料の中から生産・使用・廃棄の現状について取り上げる ①　一人一つ資料読み取り ・コットン生産：労働環境，多量農薬散布問題 ・ファストファッション生産：労働環境，環境問題	○　グループ活動にし，コットン生産の裏側でどんな人がどんな環境で働いているのか，ファッション業界の大量生産・大量消費が人・環境に与える影響等資料から読み解かせる。
②　読み取った資料の内容をグループ内で共有する	
③　オーガニックコットンの基準やエシカル消費についておさえる。前回学習した消費者の権利と責任を振り返り，商品は投票と同じであることを再確認する。	○　私たちが何かを購入する時に，品質と価格に目が行きがちだけれども，その背景を考えて商品を選ぶことも大切だということをおさえる。
3．振り返り ワークシートに自分は現状を知ったうえでどちらの肌着を選ぶのか意思決定をする。	◆　自分や家族の消費行動が環境や社会に及ぼす影響を自覚し，長期にわたって考え実行しなければいけないことを理解する。【知識・技能】
4．次回予告 自分たちの消費者行動の課題から解決方法（エシカルアクション）を考える。	○　次回はその課題をグループの中でどう課題解決するのか意見させる。